

<b>授業科目</b>  実践看護学演習 I	<b>科目概要・形式</b>  2単位 60 時間( コマ) 演習科目	<b>配当年次</b>  博士前期 1 年次 後期開講	<b>オンライン参加</b>  <input type="checkbox"/> ・不可 (下記 6, 7 参照)
<b>科目責任者</b>	清水 健史		
<b>担当者</b>	清水 健史、出貝 裕子、鳴井 ひろみ、小野 恵子、小池 祥太郎、谷川 涼子、蝦名 智子		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> 臨床看護の対象となる患者(療養者)・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために関連する研究論文を探索し、研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、専門領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。			
<b>2. 授業計画・内容</b> *この科目は選択した科目担当者が担当します。 <b>【清水 健史】</b> 精神看護の対象となる患者・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために、事例分析や先行研究の知見を通して、精神看護領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。 <b>【出貝 裕子】</b> 老年期にある人とその家族に対しエビデンスに基づいた看護実践を行うために、老年看護に関連する研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、老年看護領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。 <b>【鳴井 ひろみ】</b> がん患者・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために、がん予防、がん薬物療法看護、緩和ケアに関する研究論文を探索し、研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、がん看護学領域で必要とされている実践および研究課題を明らかにする。 <b>【小野 恵子】</b> 在宅看護に関する研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、在宅ケアの質を高めるためのアウトカム評価の思考に基づき、在宅看護学領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。 <b>【小池 祥太郎】</b> 看護技術の効果や、その効果の根拠を検証している論文のクリティークを通して、看護技術に関する研究の変遷について理解するとともに研究課題を見出す。 <b>【谷川 涼子】</b> 小児看護の対象となる子ども・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために、小児看護に関連する文献検討を通して、小児看護領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。 <b>【蝦名 智子】</b> 周産期にある女性と家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために、母性および周産期看護に関連する研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、母性(周産期)看護領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。			
<b>3. 教科書、参考書</b>			
特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。			
<b>4. 成績評価方法</b> 「レポート 30%」「プレゼンテーション 40%」「授業への取り組み 30%」で評価する。			
<b>5. 受講要件</b>			

実践看護学特論 I を履修済みの者。

**6. 社会人学生に対する配慮**

夜間開講を基本とするが、受講生と相談の上、履修時間を調整する。オンライン授業対応可能。

**7. その他**

授業は受講生がリーダーシップをとって、ゼミ形式で行う。  
オンライン授業の場合は、Zoom あるいは Webex を使用する。